

## 科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 24 年 7 月 12 日（木）10:00～10:20
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室
- 出席者 園田大臣政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、平野議員、倉持統括官、中野審議官、吉川審議官、大石審議官

### ○ 議事概要

#### 議題 1. 科学技術戦略推進費「科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進」の審査経緯及び結果概要について

- 相澤議員 第 1 の議題は、科学技術戦略推進費「科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進の審査経過及び結果概要について」でございます。これまで審査が進められてきたわけですが、その最終結果がまとまりましたので、本日は、文部科学省から報告をしていただきます。

<文部科学省 石田国際交流官ほかから説明>

- 白石議員 やはりこういうのは継続性が重要ですので、毎年こういう形で審査して、同時に、継続性にも配慮するという今のやり方で結構だろうと思います。

- 青木議員 この 3 番目のシンポジウムのことですけれども、コンソーシアム自体が人材育成に取り組んでいるのは長期的なことだと思うんですけど、今回のシンポジウム自体で何か人材育成に貢献する内容はあるんですか。

- 事務局 ここで提案されております内容は、欧米と日本を中心にアジアも含めて、産業界からの方々と、それからアカデミアの方々の両方一体となった相互の交流、そうしたところから生まれる人材養成ということが今回の提案で目玉にしておられたところだと捉えております。

- 奥村議員 この 4 件を拝見するだけでもやり方も様々な形態があるし、目的、目標も違うという中で、PO という役割としてどういうふうに関与されるのか。それぞれ個別にサジェスチョンを与えるような立場で振る舞われるのか、あるいはもっと進行修正を要求するようなことまでされるのか、どういうふうにお仕事をされるのかと教えていただきたい。

- 事務局 PO の役割としましては、このプロジェクトが、このプログラムの趣旨を実施者の方々に、もちろん提案時に十分ご理解いただいて提案はいただいているわけですが、実施いただくに当たって、そのプログラムの趣旨を十分にご説明、徹底させていただくこと、それから、審査作業部会から寄せられている採択コメントの意図などを十分ご説明した上で、それに沿って推進いただくように拝見しながら、十分にご理解いただけていないという感じがありましたら、そこはもう少しプッシュしたり、ご相談に乗るといような形で、実施者の方々も、このプログラムの趣旨を最初に十分ご説明いたしますと、その趣旨に沿って推進したいというお気持ちでご協力いただける、ほとんどのケースがそういう状況でございます。その意味では、すれ違いがもしあった場合にしましても、多分説明が不十分だったというケースで、そういう場合にはもう少し詳しくご説明をし、

実例を見ながらご説明することでご理解・サジェストさせていただいき、すぐれた評価に結びつけていただくようなことでお手伝いさせていただいているということがプログラムオフィサーの内容でございます。

○相澤議員 e-アジア国際シンポジウムでありますけれども、昨年行われて2年目を迎えるわけです。ここでアクションプランの作成を行うということなのですが、どういうことを目指してのアクションプランなのかをご説明いただきたい。

2番目の宇宙開発利用の件ですが、このスペースデブリの問題というのは、日本というよりはもっと国際的なスケールの問題であって、特にアメリカとイギリスが昨年非常に精力的に動いて、この問題の取り組みについての一つのまとまりがもう出てきている。ここの中に、「我が国がイニシアチブをとり」というくだりがあるのですが、果たして日本がイニシアチブをとるということはどういうことを意図しているのか。先ほどのご説明ですと、主要国からスピーカーを招いて意見を聴取して等りましたが、そのような状況をもう超えているのではないかと思います。

○事務局 e-アジアにつきましては、先ほどお話ししましたように、共同の人材育成、特に人の交流などをよりスムーズにするような仕組み、研究者のビザの問題などが去年議論されておりまして、それに対するプランを今年さらに追求するという、それから共同研究を推進するための枠組み、ファンディングの共同ファンディングに向けた仕組みをさらにプッシュしよう。さらに、ここにはまだ具体的に挙げられておりませんが、根回しをしつつある段階にありますのが、バンコクにインキュベーションセンターをぜひ設立したい、それを今年の一つの出口の目標に挙げているということがございます。そうしたところが皆さんの議論で早く進むようにというプッシュをこういってことでコメントにさせていただいています。

2番目の宇宙フォーラムによります宇宙デブリの問題のミーティング、欧米が先んじており、日本の役割、位置づけ、イニシアチブをどうとるのかというご質問に関しましては、提案者らの提案、そして審査作業部会としてとらえておりましたのは、欧米いずれも中心になっているのが軍組織でございます。それに対して日本はアカデミアと民間団体として軍が主導ではない立場で、軍の機密とは少し異なった観点での発言というものでリードできるのではないかとございます。

もう1点は、地域的に欧米が中心になってアジア地域が欠けておりました。そこで日本が、もう少しその地域を強化する格好で入り、そこが一つの抜け出たところのイニシアチブをとれる。それが全体に、要するに、相互の情報交換に重要な鍵を握る。さらに、アジアがこれまで入っておりませんでした。その意味で中国、韓国、インドを加えて、その融和を日本がどれだけとれるかということ今年目指していると捉えております。

○中鉢議員 e-アジア国際シンポジウムの件について1点確認させていただきたいのですが。民主党政権になってまもなく、キャンパス・アジアというプログラムがスタートしました。日中韓の大学が協力をして質保証を図りながら人材育成をしていこうという取組で、このe-アジアの取り組みとコンセプトが通じるように感じました。キャンパス・アジアとの整合性というのはどの程度とられているのでしょうか。

○事務局 キャンパスアジアのほうでございますが、日中韓で留学生交流ということを中心に重点を置いて、現在、それぞれの国で教育システム等は違うところがございますが、そのすり合わせ作業を含めて進行させていただいております。

こちらのe-アジア国際シンポジウムでございますが、こちらのほうは教育・留学生関係という

よりも科学技術、特に外交という視点も含めまして、そこを各国集まってどういう発展の仕方があるかということ、特に科学技術のほうに重点を置いておまして、キャンパスアジアの動きも、こちらのe-アジア国際シンポジウムの動きも、これはともにe-アジア構想全体につながっていくものでございますが、いろいろなプログラムでe-アジア構想全体を支えていくと、そういう考えでおります。

○白石議員 e-ASIAというと、どうしてもICTのように考えられるんですけども、これは科学技術外交タスクフォースで最初に提案しました東アジア・サイエンス&イノベーション・エリアの構築のイニシアチブの一環です。ですから、e-ASIAという名前がかなり誤解を招いているということは間違いございません。

○相澤議員 むしろ本体であるべき東アジア・サイエンス・エリア構想そのものが、当時の政権の意気込みからだんだんシフトというか、あいまいさの状態にあると、そういうことでしょうか。

特段ございませんようですので、ただいま文部科学省からご報告いただいた内容を総合科学技術会議としてご承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。

了解を得られておりますので、予定どおり本日公開という形で進めていただければと思います。

(以上)